

# リスク管理

当行では、リスク管理を経営上の重要課題と認識し、直面するリスクを把握・制御するなど、リスク管理の高度化に取り組んでいます。

当行のリスク管理は、「財務の健全性および業務の適切性を確保しつつ企業価値を高めていくため、経営戦略およびリスク特性などに応じてリスクを適切に管理し、資本の有効な活用を図ること」を基本原則としています。

## リスクの区分と定義

当行では、管理するリスクを以下のとおり区分・定義した上で、リスク特性に応じたリスク管理を行っています。

リスクの区分	リスクの定義
市場リスク	金利、為替、株式などのさまざまな市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債（オフ・バランスを含む）の価値が変動し損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスク
市場流動性リスク	市場の混乱などにより市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク
資金流動性リスク	運用と調達の間隔のミスマッチや予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、または通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク（資金繰りリスク）
信用リスク	信用供与先の財務状況の悪化などにより、資産（オフ・バランス資産を含む）の価値が減少ないし消失し、損失を被るリスク
オペレーショナル・リスク	業務の過程、役員・社員の活動もしくはシステムが不適切であることまたは外生的な事象により損失を被るリスク

## リスク管理態勢

当行では、各リスクカテゴリーを管理する部署を設けるとともに全体のリスクを統合的に管理する機能の実効性を確保するため、各リスクカテゴリーを統合して管理する部署（リスク管理統括部）を、各業務部門からの独立性を確保した上で設置しています。

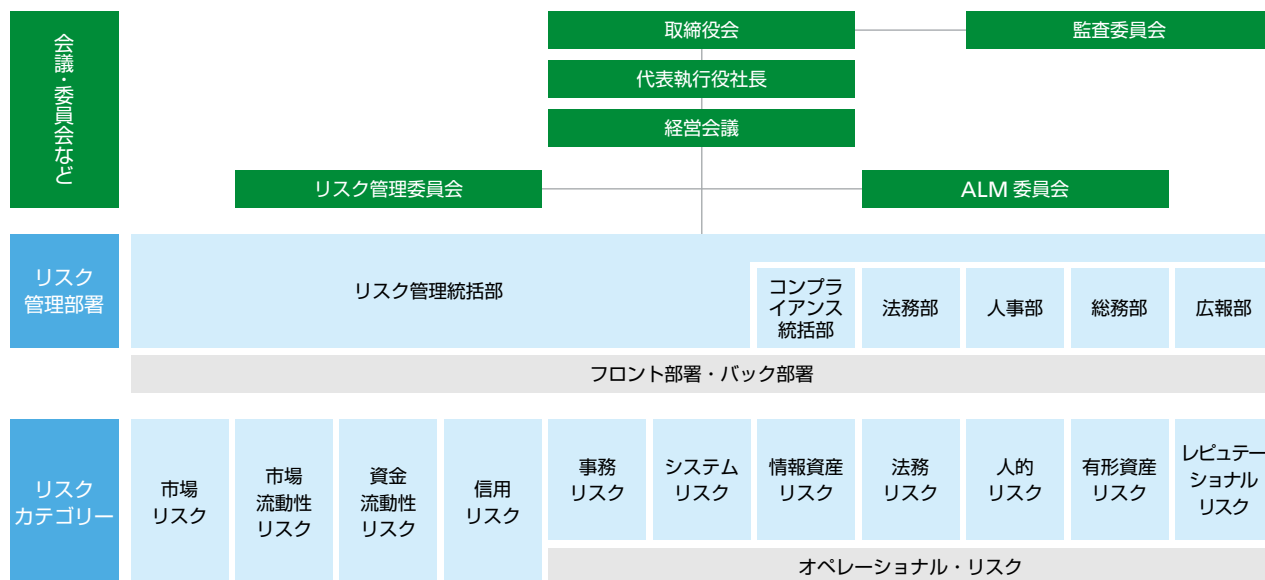
また、リスク管理・運営のため、経営会議の諮問機関として専門委員会（リスク管理委員会、ALM委員会）を

設置し、各種リスクの特性を考慮した上でその管理状況を報告し、リスク管理の方針やリスク管理態勢などを協議しています。

新商品・新規業務の導入にあたっては、事前にリスク審査を行い、新商品・新規業務に関するリスクを適切に管理する態勢を整備しています。

### リスク管理体制

(2021年7月1日現在)



## 統合リスク管理

当行では、5つのカテゴリーに区分したリスクについて、定量・定性の両面から管理を実施しています。

定量的な管理については、リスクを計量化して制御する「統合リスク管理」を導入しています。具体的には、自己資本のうちリスク取得の裏づけ対象とする総量をあらかじめ設定し、リスクの種類と業務の特性に応じて、リスクを取得している業務に割り当て（リスク資本の配賦）、客観性・適切性を確保した統一的な尺度であるVaR（バリュー・アット・リスク：保有する資産・負債に一定の確率

のもとで起こり得る最大の損失額を把握するための統計的手法）を用いて市場リスクや信用リスクを計量化し、取得リスクを制御しています。加えて、フォワード・ルッキングな視点で経営の持続可能性の観点から経営計画等の妥当性を検証することを目的に、マクロ経済環境の悪化を想定した複数のストレス・シナリオに基づき、財務、自己資本比率などに与える影響を確認するストレス・テストを実施しています。

### ストレス・テストの実施方法

フロー	概要
1 シナリオ案作成	<ul style="list-style-type: none"><li>国際機関や各国当局、金融機関等の市場参加者が認識する留意すべきリスクや経済情勢の見通しを基に、シナリオに反映すべきストレス事象を検討</li><li>ストレス事象の蓋然性や影響度に応じた複数のシナリオ案を作成</li></ul>
2 シナリオ確定	<ul style="list-style-type: none"><li>関係各部でシナリオ案を事前に協議</li><li>事前協議を経たシナリオ案をALM委員会で協議しシナリオ確定</li></ul>
3 影響額試算	<ul style="list-style-type: none"><li>シナリオごとに自己資本比率、有価証券評価損益、資金利益、リスク量等の影響額を試算</li></ul>
4 取締役会等報告	<ul style="list-style-type: none"><li>試算結果を基に、経営の持続可能性の観点から経営計画等の妥当性を検証</li><li>検証結果について、取締役会等に報告</li></ul>

定性的な管理については、定量的な管理とあわせて、各種のリスク特性に応じた管理を実施しています。たとえば、オペレーショナル・リスクについては、リスクの認識、評価、管理、削減のプロセスを統一的に実施し、PDCAサイクルを構築しています。

リスク資本の配賦については、取締役会で承認された配賦資本の総量に基づき、ALM委員会および経営会議の協議を経て代表執行役社長が決定しています。

「リスク資本の配賦図」は、P79に記載しています。

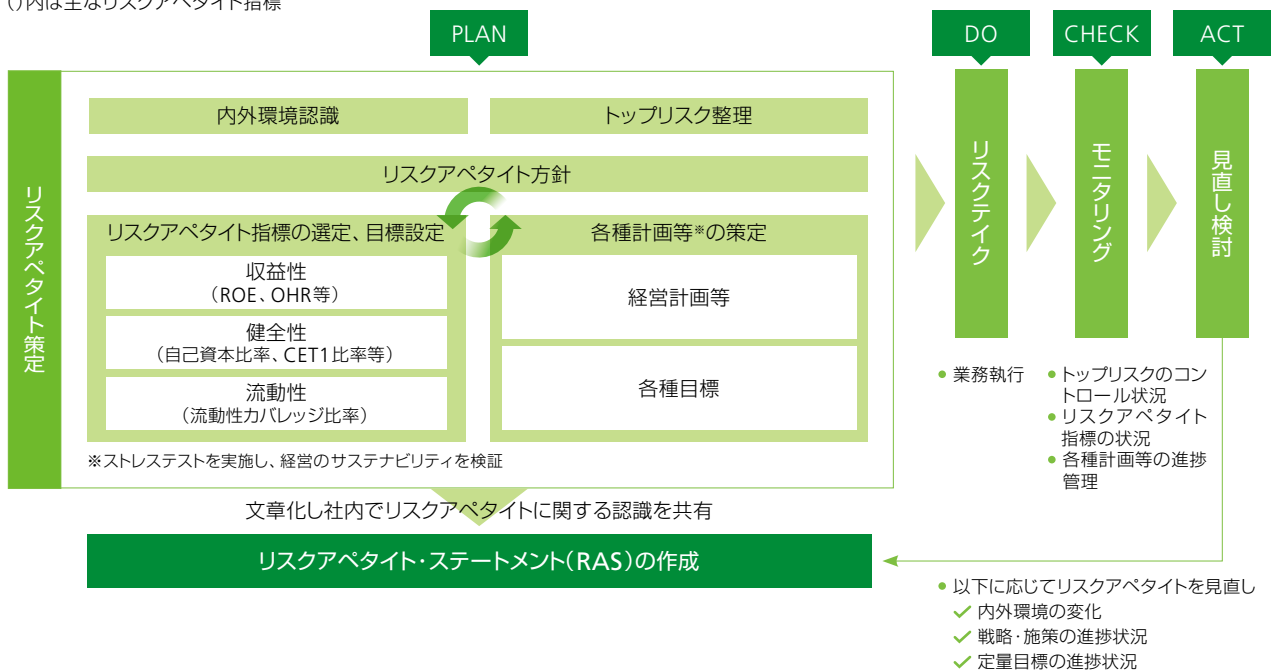
## リスクアペタイト・フレームワーク(RAF)※

当行は、中長期的な収益性確保、財務健全性等を図るため、RAFを導入しています。本枠組みに基づき、リスクアペタイト方針・指標、トップリスクを、経営計画と一体的に議論して、設定しています。

※ リスクアペタイト(自社のビジネスモデルの個性を踏まえた上で、事業計画達成のために進んで受け入れるべきリスクの種類と総量)を、資本配分や収益最大化を含むリスクテイク方針全般に関する銀行内の共通言語として用いる経営管理の枠組み。

### リスクアペタイト・フレームワークの運営プロセス

( )内は主なリスクアペタイト指標



## トップリスクの選定

RAFの枠組みの中で、当行の事業、業績および財政状態等に特に重要な影響を及ぼす可能性があるとして認識しているリスクについて、取締役会および経営会議において議論した上、影響度・蓋然性を踏まえ、トップリスクとして

選定しています。

また、選定したトップリスクへの対応は、当行の経営計画に反映し、定期的にコントロール状況等を確認した上、必要に応じて追加的な対応を行っています。

トップリスク	主な対応策
お客さま本位の業務運営の不徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客さま本位の業務運営を行うための品質管理</li> <li>適切な情報開示、2線*の機能強化、専門委員会の議論の深化 等</li> </ul>
サイバー攻撃	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイバーセキュリティに係るアクションプランの着実な実行</li> </ul>
パンデミック、大災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染拡大防止策や重要業務の運行確保</li> </ul>
経済・社会の変化、テクノロジーの進化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心を最優先としたデジタル化の推進</li> <li>新たな収益源の確保、新規ビジネスの推進、既存サービスの収支改善</li> </ul>
マネー・ローダリング/テロ資金供与	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネー・ローダリング/テロ資金供与対策の高度化・システム強化</li> </ul>
システム障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム監視等の強化</li> <li>コンティンジェンシープランの策定、緊急時の対応研修実施</li> </ul>
気候変動リスク等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESG投資の積み上げ(目標化)</li> <li>移行リスク・物理リスクの定性・定量分析を踏まえた開示強化</li> </ul>
市場/信用/流動性リスク等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオのストレス耐性強化</li> <li>国際統一基準目線での内部管理態勢の強化</li> <li>運用・リスク管理の専門人材の強化</li> </ul>

※リスク管理・コンプライアンス部門等の管理部門